

友よ!



東京・石中会だより

第2号

平成18年8月

発行 東京・石中会広報委員会 事務局/〒349-0115 蓮田市蓮田270 Tel. & Fax./048-769-7443

青沼義信氏(3回生)、母校・石巻中学校で課外授業!

東京石中会の役員でまたNP
O法人「ネパール・ミカ」の会
理事を務める3回生の青沼義信
氏が、去る1月13日(金)石巻
中学校で全校生徒327人を前
に、ボランティア活動について
の講演を行った。同講演会は、
石巻中学校からの要請を受け、
東京石中会から講師を派遣する
形で行われた。同校は「福祉教
育・ボランティア学習推進協力
事業」の協力校として指定を受
けており、昨年12月、アフリカ
への支援活動をしている卒業生
の肝いりでオスマン・サンコン
氏の講演会を開催した後であり
今回の講演は生徒へのさらなる
啓蒙に役立つこととなった。
講演会には、木村民男校長をは
じめ全教職員も参加し、在石の
3回生と5回生の有志の方々と
ともに講演に聞き入っていた。

青沼氏は、まず「ボランティアとは、人から強制されるのではなく、自発的に自分で考えて行動を起こすもの」であると説く。中学生に出来るボランティアとは、「学校の勉強が第一だから、自分が興味を持ったことで、勉強に差し支えない範囲で、自分が出ることとをすればいい」と優しく解説する。

第二部は自ら撮影した写真をスライドで紹介しながら、ネパールにおいて実施してきた教育支援活動を説明。「ネパール各地

には国家財政が厳しいため学校が不足している。そこで教育の基本の場である学校を新しく建てたり、古い校舎を建て替えたりにして、これまで11校の学校を建てて寄付してきた。こうした地道な支援活動によって、僅かではあるが識字率・就学率が少しずつ増え始めているのは嬉しいことだ。まだまだ学校建設の要請は多く、これからも活動は継続していくつもりである。」講演終了後、2人の生徒から質問があつて、ボランティアの基本の大切さを改めて説いた。講演会閉会にあたって、生徒代表から講師・青沼氏に花束の贈呈があり、感謝の気持ちを込めた全校生徒による校歌斉唱を受ける。最後に全校生徒代表の津田君より、お礼と感謝の挨拶を受け、講演会はその成果を収めて終了した。なお後日、木村校長からも丁寧なるお礼状が届いた旨お知らせしておきたい。

(井上勝夫 記)



生徒代表からの花束を受ける青沼氏

生徒からの感謝の手紙

石巻中学校 3年 菅原 未紗

先日、石中にわざわざおいでいただき、本当にありがとうございました。

私たちは、学校の授業の中で世界の国々と日本とのかわりについて学んでいて、知っているつもりでいたことも、実際に青沼さんのお話を聞いて驚くことばかりでした。

私が一番すごいと思ったのは本当にネパールに学校を建てたことです。日本の感覚では、一般の人が学校を建てることは思いつかないですが、本当に実行に移して学校を建てたということに驚きました。

私たちは今、学校でいろいろ

なボランティア活動やJRCを通しての活動を行っています。延長上に青沼さんたちの活動があると思うと、とても心強くうれしく感じました。そして、そのすばらしい活動をされているのが、私たちの石巻中学校の先輩だということに誇りを感じます。

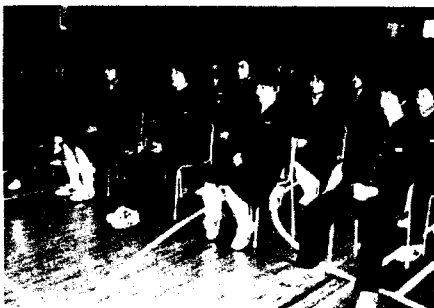
今回、おいでいただき、お会いできたことは私たちにとても大きな財産となりました。いただいたポストカードも、貴重なものばかりで青沼さんのお話とともに思いに残るものとなりました。

まだまだ寒い日が続きますがおからだに気をつけてお過ごし下さい。またお会いできる日を楽しみにしています。

「ボランティアは自分で考え行動」

石巻中OB青沼さん講演

「ボランティアとは、人から強制されるのではなく、自発的に自分で考えて行動を起こすもの」青沼氏は、中学生に出来るボランティアとは、「学校の勉強が第一だから、自分が興味を持ったことで、勉強に差し支えない範囲で、自分が出ることとをすればいい」と優しく解説する。



青沼さんの話に耳を傾ける生徒たち 石巻中体育館

シリーズ・故郷行脚・その1

お牧山の赤べごこ

5回生 早川幸子

(旧姓 横山)



「お牧山の羊崎神社へお参り

お牧山の赤べごこ、お牧山の赤べごこ、と早口で数回続けて言ってごらん?と子供の頃、こんな遊びをした思い出を、石巻で育った皆さんなら、きっとお持ちだと思います。

数年前、先祖の墓参りを兼ねて久しぶりに石巻の亡母の実家を訪ねました。その折、従姉がお牧山を案内してくれたのです。

お牧山には小学校の遠足で、また今は亡き父とお正月の元朝参りに、真暗な山道をお参りの人々と互いに「おめでとつ」と声を交しながら登ったりしてから、もうどの位の歳月が流れたのかしら、などと思いを巡ら

せている内に、車はあっという間に山頂に着きました。

かつては鬱蒼と茂っていた杉木立もすっかり切り拓かれ、道もアスファルトに変わり、神社も新しく建て直されて、周りはずっかり明るくなっていました。永い間心に残っていたお牧山のイメージとは少し違う景色の中で、五十数年の月日を改めて感じたことでした。

まずは神社に手を合わせ、永年の御無沙汰を、そして、少し元気のない石巻の繁栄を祈り山を下りました。

神社の名称は羊崎神社(ひつじざき)。それにしても「赤べごこ」はどこにいたのでしょうか。



故郷のなまり懐かし

9回生 飯田 勝紀



今年の秋、家内と東北の紅葉を見に出かけたときのことである。

秋田の「抱き返り溪谷」を散策中、親の手から離れた3歳くらいの男の子が、前日の雨で濡れた泥道でつまづいて腹ばいに転んでしまった。母親が抱き起こし、胸から腹にかけて泥のついた子供を見て「やばつついごだー」・・・すぐ後ろを歩いていた家内と私は顔を見合わせて苦笑いをしてしまった。横須賀生まれの家内はこの言葉を理解していたようである。

かなり以前になるが、年に一度の里帰り、短期ではあるが実家の母と生活をして、母との

会話の内容に戸惑いを見せて、私に解説を求めたことが何度かあった。「やばつつい」もそのとき教えたのを覚えていたようである。

私は、職業柄(工業高校の教員)共通語で喋る習性があった自分ではおくに言葉めめつたに使用なくなっていると思っている。自分ではそう思っているだけで、家内に言わせると、夢中になつて喋ると時々出てくる「イントネーションは直つていない」と指摘を受ける。通じているのだから今さら直す気はさらさらない。

教員になり立ての頃、クラスの生徒に向かつて、生徒手帳にこれを、「ねっばしておくように」と言つて大笑いされたことがある。私に限らず、東京石中会の諸兄の方々も、私と同じ経験をしたことが何度かあるのではないかと推察する。

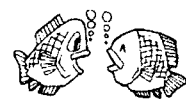
このごろは、墓参りのついでに家内と東北の温泉巡りをすることが多くなった。秋田や青森井には理解に苦しむらしく、それなりに通訳してやると、私があたかも二ヶ国語を話せる外国人であるかのように感心している。家内は元国語の教員で、今は朗読のボランティアをやっていることもあって、おくに言葉には関心があるらしく、よく話題

にすることがある。家内が面白いので得意げに教えてやる。

忘れかけていたおくに言葉が少しずつ蘇ってくる。そうしているうちに、共通語で話すとびつたりこないし迫力もないのにおくに言葉を使うと三次元映像のように驚くほど状況表現が立体化する言葉をいくつか発見した。「やばつつい」を筆頭に、「いずい」「おしすい」「ちよどす」などである。「やばつつい」や「いずい」は共通語で表現しようとする、とても苦勞する状況用語である。前段で触れた、泥のついた子供の状態を見て母親が発した「やばつつい」は情景描写としては最適語で、すぐ迫力がある。

残念ながら、こういう話は共通語を話す都会人には理解できないうえに、どうでもいいことであるらしい。石中会の諸兄諸姉にだけ送る私のメッセージである。

毎年10月に行われる東京石中会には3年連続で出席しているが、幹事さんたちの気配りもあってとても和やかで楽しい集まりなので毎年楽しみにしている。時々懐かしい流暢な石巻弁が聞かれ、ほっとすることもある。出ようか出まいか迷っている方は、一度出てみては如何でしょうか。懐かしい顔ぶれや、思い出話が飛び交い、きつと青春時代にタイムスリップできると思っています。



『お宝は?』

9回生 伊藤 幸子
(旧姓 遠藤)



あれは確か昭和40年の巳年1月1日のことでした。大荒れの海を渡って金華山へ初詣で行ったことがありました。黄金山神社で引いたおみくじの「待ち人來たらず」の文字に激しいショックを受け、以来おみくじは私にとつてのタブーとなつてしまいました。

先日、女子高校のクラス旅行(山形)のついでに気になつていた事もあり、思いきつて金華山に寄る事にしました。41年ぶりでした。というのは、かつて私の祖父が奉納したという「算額」なるものの縁を探してみたいと長い間思っていたからです。

母方の祖父杉山萬七信光は関流の和算の数学者でした。有名な神社仏閣(祖父に関して判っているのは黄金山神社)に算額を掲げ、全国津々浦々よりの参詣者の中の心得のある方に問題の提起をし、あるいは解らない所は教えを乞い、学問の伝播交流の場にしていたそうです。

数年前の5月半ばの汗ばむような日のことでした。関孝和のお墓にお参りし、庵主さんとお話をさせていたいた事がありました。寺の所在地を教えくたさざり略図まで書いてくたさつたのはW大の元総長のK先生でした。そんな事をすっかり忘れてしまつていたある秋の日、K先生より私の祖父の話が出て(以前祖父の書いた本をK先生にお見せした事がありました)、私は驚いたり、恐縮したりしながらかつて母から聞いていた金華山の算額の事を伝えました。するとK先生は「西洋でもそうなのですよ」といつてデカルトの時代の話をしてくださりました。数学がまだ普及していない頃、数学というものをと世に広めるために、問題を掲げ、他流試合等で数学の腕を研いたというような事を教えて下さいました。そして、学問の世界に洋の東西は問わないのです」と言われしました。そのような事もあつての今回の金華山行きでした。

ゆつくりと祖父の縁を偲ぶことが出来ました。
群れ飛ぶカモメや碧い海、満開の八重桜、そして、顔も見たことのない祖父が、よく来たね。と待つていたよ。と私を迎えてくれたような気がいたしました。大いなるものの懐に抱かれていた心地よさでした。
『なんでも鑑定団』という番組をよく見ているのですが、はて私の家の宝物は?
次兄が東北大の学生の頃、伯父の家より持ち出した『金花山奉願解』等々のわずかな数冊の祖父の書き残した和算の本ぐらいのものでしょうか。
「いえ、いえ、もっと大切な宝物を忘れちゃーいやせんか?」
そうです、そうです。私の本当のお宝は、私のすぐ身近にあるとさ!
おしまい。



感想・ご意見をお寄せください

「東京・石中会だより」第2号はいかがだったでしょうか。
皆様のご感想やご意見をお聞かせください。皆様からの声を活かして、皆様から愛される広報紙にしたいと思ひます。

投稿、大歓迎!!

石巻での思い出、中学校時代のことや最近石巻を訪れて感じたことなど、何でも結構です。

第4回総会も、賑やかでした。

平成17年10月16日(日)、例年同様に東京・有楽町のニュー・トーキョーで開催されました。出席者数は、男性22名、女性24名、計46名でした。今回は、12回生が同期会を兼ねるとのことと、何と16名が出席されたことが特筆されます。

秋月会長から会の冒頭に「東京・石中だよりの創刊や、修学旅行生への講演が行われ、本会の目的である会員の親睦と母校への支援が具現化し始めたことは、誠に喜ばしい限りです。」との挨拶がありました。

総会はこの後、3回生の坂本さんの軽妙な司会によるビンゴゲーム、12回生の奥田さんの歌、そして歌に乗せられてダンスを始める方、懐かしい石中学校歌の斉唱などで大いに盛り上がり、あちらこちらのテーブルでは、故郷の話題に花を咲かせるなど、笑い声が絶えない楽しい雰囲気終始しました。

皆様からの投稿をお待ちしております。

投稿には、お名前、ご住所、回生、電話番号を明記の上、200×400字くらいにまとめて左記事務局まで郵便でお送りください。

宛先: 東京・石中会事務局
阿部 剛夫
〒349-0015
蓮田市蓮田270

玩具や楽器のことなら

サルコヤ

電話 0225(96)3658

旬の茹で物「とうみぎ枝豆」

横濱屋

電話 0225(22)3008

歯の治療・入れ歯なら

箕田歯科医院

電話 0225(22)0474

創業百年を迎えました

飯田理客室

電話 0225(96)4436

総合食品

大文字屋

電話 0225(22)1244

海産物のお土産なら

井上海産物店

電話 0225(22)1030

海の活をそのままに

白謙蒲鉾店

電話 0225(22)1842

石巻の活性化、商店街の活性化のため、頑張っています。石巻へお帰りの際は、ぜひお立ち寄りください。

年会費の納入、有難うございました。

平成17年度の年会費は前年度を若干上回り、165名の方から振込みがありました。皆様のお陰をもちまして、母校・石巻中学校への支援として実施されている講演会等の活動に役立させていたいております。紙面を借りまして、納入いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

〔第3回生〕青沼義信、秋保光子、秋月英美、阿部剛、猪狩和子、大木郁子、加藤英子、河野不二子、後藤久男、坂本武久、佐々木義、武山勝、立岡寿美子、水澤昇、森山滋之、結城常明、〔第4回生〕金野和夫、平山稔、井上英治、加藤利光、阿部剛夫、森田享子、大西葉子、河崎昌子、〔第5回生〕遠藤明夫、木村栄男、猪俣昌子、上原藤三、井上勝夫、亀井彰朗、菊田淑子、佐藤玲子、早川幸子、鈴木恵美子、石井弘志、阿部道子、岩井和子、高橋貞勝、高橋勉、千坂健、渡邊寛治、小松悦子、三澤和子、〔第6回生〕久道勝信、末永敏郎、谷津澄子、相沢昌男、細川金子、中村繁子、藤澤俊、〔第7回生〕荒信子、小国常雄、金澤功、田上富美子、芳賀鐵夫、橋谷圭子、橋本洋二、廣瀬知子、〔第8回生〕阿部徳雄、梅沢治子、関春美、高橋静子、橋本照高、畠山尚、首藤光春、鈴木健司、樽見和子、川島あつ子、御牧道子、松田勝治、市川洋子、

金森喜美子、岡崎喜蔵、今野ひさ子、高嶋展広、山手てい子、〔第9回生〕高橋紀子、飯田勝紀、加藤行雄、加島恵美子、小泉勝子、青山さわ、加藤照子、滝川勇、田籠美子、滝川喜久子、菊池正、喜友名典子、伊藤幸子、〔第10回生〕本田生子、菅ノ又桂子、加藤幸子、松江千恵子、川野澄子、濱道子、

角田守弘、杉山富子、高泉政勝、館克憲、緒方正子、斎藤繁治、田代勝彦、石神篠子、今井和代、〔第11回生〕渡辺みよ、菊池保夫、我妻優子、後藤永子、〔第12回生〕南里憲三、奈良坂仁、今井あい子、夏目都喜子、堤和子、金澤由紀子、岡崎好子、蟹澤詔子、本多孝子、金澤洋、吉田文也、山下秀子、岡崎国男、榊経子、村上秀一、西條修、吉田義男、門馬糸子、〔第13回生〕佐々木次臣、小堀敦子、吉村久仁子、赤塚誠哉、大山義夫、北畠昭、勝島節子、村田悦亮、植草良子、黒崎美和子、小杉寛子、〔第14回生〕小川孝三郎、武山和子、若狭公子、渡辺和子、山中圭子、梅沢歌子、鈴木照子、大貫とめよ、中村芳枝、〔第15回生〕阿部博子、西條紀郎、今井恵子、鈴木幸子、星澤晋、〔第16回生〕森岡芳朗、葉良枝、岡康博、青山憲介、藺田美智子、石井俊子、渡辺啓子、

〔第17回生〕西條充郎、〔第20回生〕山川恵利子、唐沢泰子、

〔第25回生〕榎野照子、菅野富美子、〔第36回生〕浅野剛

（敬称略、名簿順）

東京・石中会への寄付

東京石中会も今年で5年目に入ります。会の運営は、基本的には同窓生皆様からの貴重な年会費を財源としておりますが、事務費用その他の活動で、財政的にはまだまだ脆弱な面を有しています。

東京・石中会の活動の灯を絶やさなためにも、以下の回生の方々から多大なご寄付をいただきました。紙面をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

〔第3回生〕128,000円
〔秋月英美、阿部剛、後藤久男、坂本武久、水澤昇、森山滋之、結城常明、立岡寿美子、武山勝、笈入光子、栗原比喩子、大木郁子、秋保光子、青沼義信、〔第4回生〕20,000円〕阿部剛夫、〔第5回生〕60,000円〕阿部道子、石井弘志、鈴木恵美子、猪俣昌子、宮川洋子、坂本幸久、佐藤仁子、中館将、高村多恵子、早川幸子、上原藤三、井上勝夫（以上敬称略）

東京石中会では、引き続き皆様からの貴重なご寄付を受け賜っております。ご芳志は、左記宛お送りくださいますようお願いいたします。

阿部剛夫 〒349-0011 5
埼玉県蓮田市蓮田270

第5回

東京・石中会

9月9日(土)

開場：11:30
開宴：12:00

ニュートキーョー 数寄屋橋本店 9階「ラ・ステラ」千代田区有楽町2-2-3

事務局だより

役員定例会を年に数回開いて、東京石中会のこれからの方針などを検討していますが、先の役員会で、総会の開催時期を6月にする案が検討されました。

第5回総会は、広報紙のこともあって9月9日(土)開催に決まりましたが、来年度以降は6月開催が濃厚になりそうです。

今回も、会報「友よ！東京石中会だより」の第2号を皆様にお届けできることになりました。これも、原稿を寄せていただいた同窓生の皆様のお陰と感謝しております。

創刊号に掲載された古い校舎を見て、懐かしく思った同窓生が大勢いたようですが、第2号では、どの記事が良かったでしょうか。

次に会の財政状況ですが、平成17年度決算報告書によると次期繰越金は寄付金とほぼ同額です。これは、寄付金で何とか赤字を免れているということです。

因みに、17年度の年会費は162名の皆様から総額153,660円を納入していただきました。今後とも皆様は1,000円の年会費の納入をお願い致します。これが東京石中会の活動エネルギー源なのです。

平成18年12月を目途に東京石中会のホームページを立ち上げるべく目下検討中です。どなたかPCに詳しく若手の方で、お力をお貸しいただけませんでしょうか。事務局まで一報をお待ちしています。

事務局長 阿部剛夫

編集・広報委員会スタッフ

委員長 井上勝夫
委員 首藤光春
委員 鈴木健司